



奈留島の江上集落(江上天主堂)
 老朽化が進む江上天主堂は寄附をもとに保存修理工事が実施された。特に傷んでいた屋根や外壁を中心に修理が行なわれ、今年8月に完了した

海に近い谷間に教会堂を建てた集落

五島列島中部に位置し、複雑な海岸線と急斜面の山腹を有する奈留島。19世紀に江上地区に移住した潜伏キリシタンは、島内の既存の集落から離れた斜面地を切り開いて居を構え集落を形成して、わずかな農地や漁業で生計を営みながら、自らの信仰を組織的に継続しました。

1873年の解禁後、江上集落の信徒はカトリックへ復帰し、かつての指導者の屋敷を「仮の聖堂」として信仰の場としました。その後、1918年にはキビナゴ漁によって蓄えた資金を元手に現在の江上天主堂を完成させました。

江上天主堂は潜伏キリシタンが移住先として選んだ江上固有の地形や在来の建築意匠・工法と信者たちが教会堂に求めた西洋の特徴が融合している点において、長崎と天草地方に建てられた教会堂の中でも潜伏キリシタンの信仰継続にかかわる伝統が変容し、終わりを迎えたことを最も端的にあらわしています。

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171

長崎から世界遺産を 検索



江上天主堂

湧水に恵まれ防風に適してはいるものの湿度の高い場所であるため、床組に日本式の床束を用いるなど、風通しに配慮した在来工法により建てられた教会堂。また、軒裏には装飾を兼ねた通風口を設けるなど、集落内の民家と共通する独特の構造が特徴

県では、広く皆さんからの寄附をもとに、構成資産の修復や耐震対策などの事業に助成しています。ご協力をお願いします。

長崎県 構成資産へ寄附 検索

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて
 密かな信仰の証
 ⑪ 奈留島の江上集落
 (江上天主堂とその周辺)
 (五島市)